

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	にしむら よしふみ 西村 喜文	所属・職 名	社会福祉学科 教授
専門領域	臨床心理学	学位 称号	博士（臨床心理学 京都文教大学）
最終学歴	福岡県立大学 大学院 人間社会学研究科 生涯発達臨床心理学専攻（修士課程）修了		
資格・免許等	臨床心理士資格取得（登録番号 3577）日本臨床心理士認定協会資格（1992（平2）年11月）		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	学部：生涯発達心理学、教育心理学、児童臨床心理学、心理学実験演習、カウンセリング演習Ⅰ、カウンセリング演習Ⅱ、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ（卒業論文） 大学院：臨床心理面接特論Ⅱ、心理療法特論、障害児(者)心理学特論、臨床心理実習、特別研究		
教育方法の実践例 教材の開発 教育改善活動等	<p>1. 教育方法の実践例</p> <p>1) 体験型学習の導入（2003年4月～） 目的：臨床心理学的体験を通して自己理解・他者理解を深める 実践科目：臨床心理学専門演習 社会福祉学演習Ⅱ 臨床心理学の理論の中でも、特に芸術療法技法（箱庭療法、コラージュ療法、絵画療法など）を用いて自己理解や他者理解を深め、青年期の自我教化の促進を目的に行った。その結果、自己のありようについて理解を深め、対人援助における相互関与性について考える機会となっている。</p> <p>2) 課題・レポートの活用（2003年4月～体験学習後は必ずレポート提出を義務付けている。自己理解を深める工夫(学生同士の評価)。 箱庭療法の技法を用いて実際に学生に箱庭を制作させ(前期)、学生同士でSD法を用いて作品の印象評定を行い、シェアリングおよび自己評価、他者評価のレポートを作成させた。また、「自己のありよう」について理解させながら、カウンセリング演習、絵画療法、コラージュ療法の技法を用いて、人間理解と対人関係のあり方について理解を深めさせた。また、前期の講義開始時と終了後に質問紙法と投映法の心理検査を用いて自己理解を深めるようにしている。</p> <p>I)、2)の実践効果 卒業論文に関する意識が高まり、文献収集やレポートの書き方も工夫が見られるようになってきた。また、調査研究への準備としてフィールドワークの一環として施設訪問などボランティアを始めている学生もいる。卒業論文も調査研究が多く、論文としての形になってきている。 また、臨床心理学に対する興味も深まり大学院進学を考える機会となっている。学生による授業評価からも学生の満足度は高く、出席率も高い。</p> <p>3) 協同学習の取り入れ（ジグソー学習） 2004(平16)年4月より実践 実践科目：教育心理学 児童臨床心理学 具体的方法： 協同グループ学習を取り入れ、特にジグソー学習を中心に行っている。 受講生全員が教える側と教わる側に立ち学習を進めていく方法である。学習課題を複数のパートに分割し、メンバーが話し合っ予習し授業でレポーターとして発表する方法である。よって受講している学生は一度は受講生の前で発表する形となる。グループ学習を取り入れ、問題解決過程における主体的に関与することによって学習がより促進されることをねらいとしている。 また、毎回授業の最後に学習課題に対する小テストを行い自己学習の確認と理解を深めることにしている。</p> <p>実践効果 教職科目も含んでおり、受講生の前で発表したりすることは教育実習においても役立つと学生からの評価も得ている。 自分たちで学習することで、学生同士の連携も含めて充実した学習が展開されると</p>		

思われる。学生の満足度も高く授業に積極的である。

4) DVD教材の取り入れ

実践科目：生涯発達心理学 カウンセリング演習Ⅰ、Ⅱ

具体的方法：生涯発達心理学は、受講生が120名と多い為、学習効果をあげる一つの方法としてDVD教材を用いた授業を行っている。人間の誕生から死にいたるまでの一生涯を対象とし、基礎理論、発達の捉え方など授業の最初に20分程度視覚的に理解させ、その後講義、及び小テストを必ず行い、その回の学習の確認と理解を深めることにしている。臨床心理学専門演習の箱庭体験後にDVD教材を用い振り返りと箱庭の理解を深めている。

実践効果

人間の発達を視覚的に理解できる為、興味をもって授業に臨んでいる。箱庭に関しては、学生も実際に体験している為興味も深まり、学生による評価も高く満足度も高い。

2. 教材開発

- 1) 「ライフサイクルの臨床心理学」馬場禮子 永井徹共著 培風館 2005年4月～
生涯発達心理学の授業において使用する。この教科書はライフサイクルの視点から人間理解を深めようとまとめられている。講義の要点を理解できるように配慮しながらアウトラインを1回ごとに作成し、そのプリントを毎回の授業で配布し小テストを行っている。
- 2) 「最新教育心理学」桜井茂雄編 図書文化 2005年4月～
教職を目指す人の為の教科書であり、具体的な方法論が述べてある。講義の要点を理解できるように配慮しながらアウトラインを1回ごとに作成し、そのプリントを毎回の授業で配布し小テストを行っている。
- 3) 「思春期・青年期の心理臨床」佐藤仁美・西村喜文著 放送大学振興会 2009年4月～
児童臨床心理学の授業において使用。児童、生徒の心理、行動上の問題を教育との関係の中で考えていこうとする内容である。児童・生徒の臨床上の問題行動について事前にアウトラインを出し提示しながら、レポート作成及び発表を行わせている。
- 4) ・「臨床心理学～心の理解と援助のために」森谷寛之著 サイエンス社
・「箱庭療法の意義」学術論文（再掲）筆者西村喜文
・「重症心理障害者へのコラーージュ療法～コラーージュ療法の意義～」学術論文（再掲）筆者西村喜文 2005年4月～
「カウンセリング演習Ⅰ、Ⅱ」の授業において使用。援助の為の臨床心理学技法について書いてあり学生への理解と実践の参考になる。筆者論文や画像を見せることによりより理解を深められるよう配慮している。筆者論文を用いて心理臨床について説明し理解を深めている。
- 5) DVD教材「生涯発達心理学門」田島信元監修 丸善 2007年4月～
生涯発達心理学の授業において使用。乳幼児期から老年期までの発達について視覚的に理解するビデオ教材である。とくに、保育、医療系、福祉系の学生の為に編集してある。
- 6) DVD教材「箱庭療法の実践」木村晴子監修 クリエーションアカデミー2007年4月
臨床心理学専門演習の授業において使用。箱庭の実践について、導入の方法、事例を通して基本的な質問やロールプレイを用いて監修してある。授業では箱庭演習後にDVD教材を用いて演習を振り返り理解を深めている。

3. 教育改善活動等

- 1) 教育上の能力に関する大学等の評価（学生による授業評価）
毎年実施されている学生による授業評価は「教育心理学」「生涯発達心理学」「ゼミナールⅡ・Ⅲ」「児童臨床心理学」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」など総合評価は「4.0」であり満足度は高い。
- 2) ティーチング・アシスタントの活用 2005(平17)年4月より実践
実践科目：心理学実験演習 カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ
具体的方法
教材準備やグループ学習時への参加と補助

	<p>実践効果 学生が身近に質問したり、補助活動により学習がスムーズに展開できる。</p> <p>3) オフィスアワーの活用 2003(平 15)年4月より実践 実践科目：学生相談、教科指導等</p> <p>具体的方法 学生生活における不安等の相談時間や就職活動相談、科目における疑問点、レポート指導等を行っている。卒業論文は授業のほか個別指導を行っているが、時間が充分でないためオフィスアワーを活用して卒業論文の進捗状況および理解度のチェックを行っている。</p> <p>実践効果 個別指導が徹底でき学生とのラポールにも有効である。</p>
--	---

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書・学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
著書			
1. 「保育心理」 「保育現場におけるコラージュの活用」第5章3節 編者：牧野桂一・山田真理子	分担	樹心社(分担執筆 p144-149) 総頁 241	2007年 11月
2. 「思春期・青年期の心理臨床」 編者：佐藤仁美・西村喜文	共著	放送大学教育振興会	2009年 3月
論文			
1. 「高齢者への心理的援助の基本的姿勢」	単著	長崎純心大学心理教育相 談センター紀要 VOL5 p 35-40	2009年 3月
2. 「幼児期における家族イメージの研究—マルと家族 画の技法を用いて—」	共著	西九州大学健康福祉学部 紀要第 39号 p79-88	2010年 3月
3. 「大学生における箱庭表現に関する基礎的研究」	共著	西九州大学健康福祉学部 紀要第 40号 p75-92	2011年 3月
4. 「乳幼児のコラージュ表現の特徴—印象評定を用いた 集計調査—」	単著	箱庭療法学研究 Vol.23.No2	2011年 3月
5. 「乳幼児から思春期・青年期までのコラージュ表現 の発達的特徴と臨床的研究」	単著	京都文教大学論文博士学 位論文	2011年 9月
6. 「宇宙にひきこもっていた男子高校生との面接過程 —コラージュ表現を通して—」	共著	日本コラージュ療法学研 究 3巻 1号掲載予定	2012年 8月

7. 「幼児のコラージュ表現の可能性」	単著	日本コラージュ療法学研究3巻第1号掲載予定	2012年8月
報告書			
1. 「不適応児への心理的支援」	筆著	全国適応指導教室連絡協議会四国・中国地域大会講演報告集	2007年3月
2. 「今、乳幼児の求めるもの～乳幼児の心の育ちのための援助～」	筆著	全国保育園保健研究大会講演報告集	2007年7月
3. 「コラージュ技法の発達的特徴と臨床的特徴」	単著	平成 21 年度科学研究費補助金実績報告書 基盤研究(C)研究実績報告書	2010年3月
4. 「倫理公告ー看過できない重要な警告ー」	筆著	日本コラージュ絵療学会ニュースレター第2号	2010年4月
5. 「コラージュ技法の発達的特徴と臨床的特徴」	筆著	科学研究費助成金採択「基盤研究（C）研究課題「コラージュ技法の発達的特徴と臨床的特徴」2008年4月～2011年3月報告書	2011年3月
学会発表			
1. コラージュにおける児童期の発達的变化～特に自己像についての検討～	筆	日本心理臨床学会第 26 回大会発表	2007年9月
2. コラージュ療法と箱庭療法	筆	日本心理臨床学会第 26 回大会自主シンポジウム企画および話題提供	2007年9月
3. 印象評定から見た乳幼児のコラージュ表現の特徴	筆	日本箱庭療法学会第 21 回大会	2008年10月
4. コラージュ療法の基礎的研究	筆	日本コラージュ療学会第 2 回大会ワークショップ	2010年8月
5. 中年期うつ女性の夢物語	筆	日本箱庭療法学会第 25 回大会	2011年10月
6. ADHD 的様相を呈する小学生男児との遊戯療法過程	共	日本箱庭療法学会第 25 回大会	2011年10月

研究助成等	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成金採択「基盤研究（C）研究課題「コラージュ技法の発達的特徴と臨床的特徴」2008年4月～2011年3月 ・科学研究費助成金採択「基盤研究（C）研究課題「被虐待児の箱庭技法、コラージュ技法の臨床的特徴」2011年4月～2014年3月
-------	--

学会及び社会における活動等

所属学会

- 日本箱庭療法学会正会員
- 日本心理臨床学会正会員
- 日本臨床心理士会会員
- 日本交流分析学会正会員
- 日本描画テスト・描画療法学会正会員
- 日本遊戯療法学会正会員
- 日本コラージュ療法学会正会員

役員

- 日本コラージュ療法学会常任理事
- 日本コラージュ療法学会事務局長
- 日本遊戯療法学会理事

審議会等委員

- 佐賀県教育センター スーパーアドバイザー（2001年4月～2009年3月）
- 佐世保小学生殺傷事件緊急支援カウンセラー（2004年6月）
- 佐世保市子ども安心ネットワーク専門委員（2002年4月～現在）
- 佐賀県スクーリング・サポート・ネットワーク推進協議会委員(2003年4月～2009年3月)
- 佐賀県スクーリング・サポート・ネットワーク評価検討会議委員（2003年4月～2009年3月）
- 長崎県「心の面談支援事業」専門委員（2005年4月～2009年3月）
- 長崎県心の支援「緊急支援チーム」委員 指揮担当(2007年7月～2008年3月)

兼職

- 長崎県スクールカウンセラー専門委員
- 長崎純心大学大学院非常勤講師(高齢者心理学特論担当) 2002年4月～2010年3月
- 長崎大学医学部非常勤講師(医と社会：乳幼児期と思春期担当)
- 放送大学主任講師(児童期・思春期臨床担当)

学会関係

学会座長	日本遊戯療法学会第10回大会	2004(平16)年7月
学会座長	日本遊戯療法学会第12回大会	2007(平19)年7月
学会座長	日本遊戯療法学会第13回大会	2008(平20)年6月
学会座長	日本遊戯療法学会第14回大会	2009(平21)年6月
学会座長	日本遊戯療法学会第15回大会	2010(平22)年6月
学会座長	日本コラージュ療法学会第1回大会	2009(平21)年8月
学会座長	日本コラージュ療法学会第2回大会	2010(平22)年8月
学会座長	九州心理臨床学会	2011(平23)年3月
学会司会	日本箱庭療法学会第22回大会	2008(平20)年10月
学会司会	日本箱庭療法学会第23回大会	2009(平21)年10月
学会司会	日本箱庭療法学会第24回大会	2010(平22)年10月

ワークショップ講師

- 学校教育相談学会九州地区研究会ワークショップ講師
日本学校教育相談学会九州地区研究会
2007(平19)年11月
- 日本コラージュ療法学会第2回大会ワークショップ講師
2010(平22)年8月
- 鹿児島県臨床心理士会主催ワークショップ講師
2012(平23)年3月

シンポジウム他

- 日本心理臨床学会第26回大会自主シンポジウム企画

日本心理臨床学会第26回大会自主シンポジウム

	2007(平19)年9月
日本コラーージュ療法学会第1回大会シンポジスト	2009(平21)年8月
日本コラーージュ療法学会第2回大会シンポジスト	2010(平22)年8月
日本コラーージュ療法学会第3回大会基調講演	2011(平23)年8月
日本コラーージュ療法学会第3回大会シンポジスト	2011(平23)年8月
日本箱庭療法第21回大会実行委員長	
日本箱庭療法学会第21回大会	2007(平19)年10月
日本遊戯療法学会全国研修会準備委員長	2010(平22)年3月
日本コラーージュ療法学会第3回大会会長	2011(平23)年8月